【勤務参考】12

１５．８．１２
技術開発官（船舶担当）

「失敗学のすすめ」（畑村洋太郎著）から

先般技本において講演された「失敗学」について更に知見を深めるため、少し変わった試みをしてみよう。つまり、その著者のカバーや目次などをざーっと取り上げてみれば、その概要が把握できるにとどまらず、いかにも熟読したような錯覚を得ることができる。すなわち本屋での立ち読み風知識習得法（仮称）で「とりあえず知見が少し深まる」のではなかろうか。

【表紙の帯に記載されている「おもな内容」（抜粋）】

○　「失敗学」に基づく東大機械科の学習法
○　失敗には階層性がある
○　失敗は成長する
○　失敗情報は隠れたがる
○　大切なのは仮想演習をすること
○　どんな創造も仮説立証から生まれる
○　「訓練失敗」を組み入れる
○　「まさかこんなことが起こるとは思わなかった」のウソ
○　リーダーにより失敗は三倍違う
○　二万個の失敗を集めても意味はない

【見開きカバーの解説（直裁）】

長年、大学で設計について指導している著者が、痛感したこと。それは失敗といかにつき合うかによって個人の成長、組織の発展が大きく違ってくるということ。起きてしまった失敗に積極的に取り組んでうまく活かせば、その後の創造の大きなヒントにもなるし、また次にくる大きな失敗を未然に防ぐこともできる。反対に失敗を避けて隠していれば、成功もおぼつかないし、大きな失敗を防ぐこともできない。

今、続発している企業不祥事や事故の多くも、失敗に対しきちんと対処してこなかったのが原因だ。

【目次（すぐに使えそうなキーワードのみ抜粋）】

プロローグ
　失敗は成功の母
　失敗のプラス面に目を向けよう
第１章　失敗とは何か
　「人間が関わっている」「望ましくない結果」、それが失敗
　サポートは大変でも失敗学習は意義がある
　記憶に残る失敗談が学生の成長を促す
第２章　失敗の種類と特徴
　失敗には階層性がある
　途中変更が諸悪の根源
　失敗は成長する

失敗は予測できる
第３章　失敗情報の伝わり方・伝え方
失敗情報は伝わりにくく、時間が経つと減衰する
失敗情報は隠れたがる
失敗情報は単純化したがる
失敗原因は変わりたがる
失敗は神話化しやすい
客観的失敗情報は役に立たない
失敗は知識化しなければ伝わらない
決して批判するな
第４章　全体を理解する
解を求める学習で得た知識と体感学習で得た知識は違う
まず行動してみよう
第５章　失敗こそが創造を生む
思考平面上にアイデアの種が落ちてくる
大切なのは仮想演習をすること
アイデアの種は大胆に切り捨てる
口に出さない常識がある
思いつきノートをつけよう
考えの全体構成を見よう
どんな創造も仮想演習から生まれる
第６章　失敗を立体的にとらえる
「潜在失敗」を含み損として捉える
「訓練失敗」を組み入れる
第７章　致命的な失敗をなくす
「まさかこんなことが起こるとは思わなかった」のウソ
だめ上司には気をつけろ
無駄な会議が多すぎる
リーダーにより失敗は三倍違う
第８章　失敗を活かすシステム作り
二万個の失敗情報を集めても意味はない
必要な失敗情報は最大三百個
知識と経験を与える場つくり
失敗を活かす得になる仕組み作り
エピローグ　失敗を肯定しよう
マネ文化の限界
そして失敗は続く

以上をざーっとながめただけで「失敗学」というものがおぼろげに理解できたような気がすると推量する。そこで「なるほど！」「もう少し詳しく知りたい」などの感想が湧いてきたら、１６００円を支払って、つぶさに読むことを薦めるが、本職も所有しているので貸し出すことも可である。

以　上